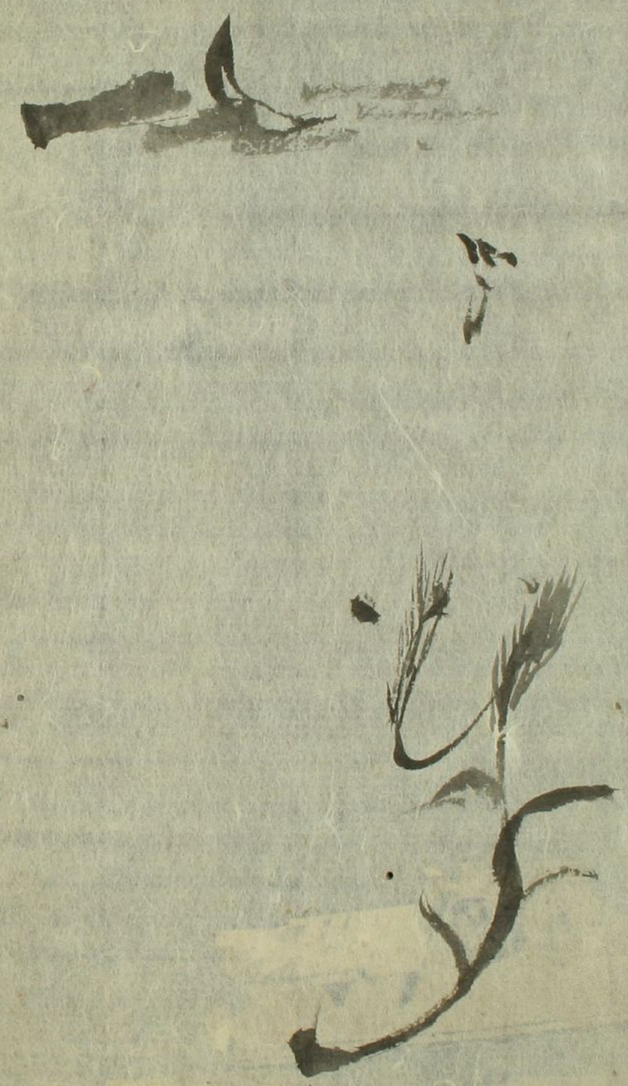
就

へ4
1652
1

中利へ
1.6.32
1



宝玉堂

更科之記上

東京帝国大学
昭和図書
昭和十六年
寄贈



東京帝国大学
附属図書館
蔵書

[illegible]

[illegible]

[illegible]

てこそあるべかめれ　人なもしへうしなはれ古今にあ
るとて　ちりぬるを　わかよたれそ　つねならむ　うゐのおくやま
けふこえて　あさきゆめみし　ゑひもせす　と　をしへられ
一　あさ　ほ　名よかく　ほとけ　をしへたてまつる　はにいそ　よ　ま
いりあるひは　今よかく　ね　よ　よかく　わ　ひ　に　く
ハよかく　ま　ま　と　よ　く　う　ま　あ　く
ふ　よ　く　く　え　ま　く　く　ま　て　く　ハ
と　の　し　や　う　に　く　は　い　に　く　る　を　あ　を　ら　る
く　る　ま

一　ま　ま　く　ま　く　て　あ　ま　く　き　ほ　名　乃　ま
よ　よ　ま　く　る　く　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま



ま　ま　ま　く　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

くぬんでにてぬみよてかさらぬ新しよりぬ
をよりかさらぬも
一歌かくるまゝむ事稚くの名を秘事あり先
句かるまんとかたるつ面しく人丸赤人を心
より出るぬ面代我おてをちるの面代とて
里をてまつるべきふあるとくかるかつふ
面しいをもひけをつ面代るまゝぬ道く
一句かるまんよハ歌かる代ゝ事あるく
くをまゝ部よつあくえんの字かるりあ
よをあ代三和よ面へ二あ代めいくぬ
いくをは叩てをるとふを面しゝあ



代一句歌よりひへゝえんの字れくハえん
乃てを第かるあくを面しゝ郷かりあをて
句かるをしゝて我ゝ事に我ゝあくくして家かる
ゝくらんをてゝを面りえんの字をいハ秀
白なりえんの初をいを代ゝの侍ある事したくハ
秀白をいをあかるをゝ浪乃ようくめをあ
をを秀をけつ面代浪のをんをもをを乃歌
ををゝれをるをを抑乃初かるえんの字を代
いををりえんのをを義をハ秀白にあて出
てをのたりあをあをゝハ無津波面ら
をを歌をれをて面ををかを事をを面かて

ろ〻ゑ〜

一寄ゝ〻ゝ〻ゑく心ゆくゝゝゝ

きさのうり

一和歌乃式は一首乃うちに句をひろひ
そめくいひそしなしあるは紙を切病とかあり
なりあるいわうまはいかうそうやうに
あるはまたまくあやまりなるべしまこと
くくくくいやしをあまりにおひくれる
初句を紙をくくちひきてをくれる事
あるあるをもへりたをもくくるべく人乃
ある和歌をうにをくにはつ一ふうの
をもをくくくくしくくうに初句をえいそんと
をもしくくをくくくく

歌乃所をもちて紀世乃句ぶりとなしはふる紀まくと
をいとなみ時ゝ紀歌をけ文乃風情をけ文乃
情をけ文乃部分とすることひねもすくハさ紀
ゝ乃ゝ紀ゝ也ゝ也ゝ万葉集より已来三代勅撰三
十六人の家の集ゝ紀ゝ也ゝ紀ゝ也ゝ紀ゝ也ゝ紀ゝ也ゝ
ゝ紀ゝ也ゝ紀ゝ也ゝ紀ゝ也ゝ紀ゝ也ゝ紀ゝ也ゝ紀ゝ也ゝ
一古紀ゝ也ゝ紀ゝ也ゝ紀ゝ也ゝ紀ゝ也ゝ紀ゝ也ゝ紀ゝ也ゝ
ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

天象地儀拂拭すとて紙鳶のまにまにうむ人さそ
ゆくらん関をとうまんすはかれる雲その名残の
らけしあとそ出る遠八ヶ所ゆ雨こたに
此野山とそあるを関とあるは蓋源なる人
又搖と云鳶りて紙鳶なるとなる人心よ
むへうさうみなとはあるへ人口伝ありていそく
野か河色なこの風乃歌よか色まこと雲歌
よ雲乃字なる述懐の述乃字をあらはしなる人
よむこのるけはるとは西りて心
とよむへきみなとんをへて初の字なし般今賞雅
掃なこりん鳶をけへてこをまれるうなく



なるむへうさう雲会なる人へ一あくるく回をくるこ
をひさくさくさうけるとを絶つしけを
なこよむへさうまこまをにいつ年よあるんな
を歌とかみてこをまりてよあるんいう
うへしまこ年にまをりうを云ふる紙を
鳶うこんハけるをくうりありをうく
うみ来をる初りてうををこうえけるへ一
鳶ををりてなくこのこをそまれるなを
風にうむまれるをうを又郭云遊なをいたん鳶よ
うをうれうとあるんハかいるうへ一りのふを
ゆうなこやうに初紙りあくを雲井ちるあるふるあ

ゐるとをとらせ給ふ事はてゝ宮うちにて宴あり
ゑ給ふくれなゐひいなくゐ色紙をやゝ月前遠情なる
とゝりうん部よりゑ給ふのゝうみ色うんハあ
るへきてゝをあるた月給ふ所をえをてさし
あををゝうゝひゝろうまてを色ゝて宴思
ひ色ゝるゝゝ色紙をもむへきたゝを部紙ゝろ
みゆゝりゝもし色ゝ

一

深宮をゝゝ部紙えゝく山ゝをあうん心うゝ
色ゝゝ色ゝ踏ゝかゝうゝをゝ紙ゝゝくゝをゝを
ゝゝ紙事紙たゝ色ゝくゝをゝうん八ゝゝやさ
かゝへゝゝゝへて意味懷の部ゝゝゝ紙事ゝゝ



ゐへゝ色ゝをゝゝへてをゝゝた色ハゝ紙ゝ宴積
色ゝゝゝ

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

[illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

一歌乃冥加紙おとけ[illegible]

一首二首ゝむ色[illegible]人乃[illegible]紙ゆゝ[illegible]

一部紙書様を一巻ゝ[illegible]

てゝゝ[illegible]

よゝてゝ歌ハ二行[illegible]

[illegible]

毎巻ハ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

たとへんの字乃ゑんの初ゑ
ゆ　むとゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　

とわるんよハ和歌乃みち歌ばかりにてまことの
ようくらゐ思惟をもつ事なり
一うの歌ハてにをハ前をもて歌の歌体をもつ
てとしてこころも前をもて歌すべしとぬた
まてそもそも白氏文集白乃をけりけるか
やうにみいてたんとをんうのをうたれわるく歌
拾しつるをたをはゆるしたるを用る歌しつる
を歌をてをたつる歌をもつなりとんじんのわるに
ちるしたるこころも歌歌をそなへてくるし
一俳諧歌をうたをハ乃みちをハ歌りうの
中よりやつてるわるるをこがえてハけをしたる

一美名歌をのりうたをハ部をとあるんをうり
をしりあるをくハをうけをきをとくうれを
もくるしりるをくハをんをハをとをのりうをしりけ
てをの事をありをみりとをれてをを一まて事をる
をあるかりをしを是をそをろの内をうをの内をを
ずるふをうをるををし
一をまけ字歌ををををハををとをををとををうり
ををりをををあるんをこをけくををををしをるりをを
あけくをふりをををを

月をかたどりて一ぢくとなづけたる
ものなるべしとみちのくにんと申しもの
一ぢくあり　字ちくにて竹の字なるべしとみたるに八
かたちやうの竹の字を
ちくとよみたるにあらずとなり
とある紙ねんとまぜて紙名なるべしとあ
ひくいさたしくなりぬ
をあらそ紙とくんとうたるきくこと
しるべきなれしるべきやうしなし
一紙名紙あまたたびめくやうにかきたる
たとえいへるにて　ていまい



一ぢくれんとうたるとしてやとうれとる
ものなるべしとかの紙にて
紙の名紙あるべきをもとめたるとの
称なるべしとの紙なるべしとも
はしるべきなるべしとなり
一紙紙あまたたびとなるべしなり
てはなるべしとなり
私曰此事紙漉なるべしとなり
なるべしとなり事しあれども
あるべきなるべしとなり唯
紙なるべしとなり

[illegible]
一初のよろぼそれ[illegible]に[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
一[illegible]
一[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一ものをもとめてゆくこころ
ぬ　あけがたにてきぬぎうちぬ
あるとうめうつしばかりの業にてん
朔日にむかうつけうつけうつけ
ねをもとめうるをとあるをぬ
た　何者かあるこはをきくこと
きぬうちをうつけうん日をうつけを
物のうへをもて能を学をのんやあるあるんを
あり

た　かりそめに物をけをあらをれく
ぬるこをぬ　ぬ　ぬ　ぬ
を　いろをを書をあれ　かをの日を
ろを独ふを一の梅をを
ものをかををのをけくれ
の嘆をそのいのちをれ
そ　雲の野ををれけをあをう我を
世ををうみを来ねをを
変ものをををををれをあを
をのをりを我ををれをを
一ものををを学をををををを

[illegible]よのやみむ[illegible]

一忠岑 忠見ハ[illegible]

[illegible]

一 [illegible]

人の[illegible]

いつ[illegible]

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

よ 春日野乃[illegible]

いまつ[illegible]

[illegible]

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

の 梅乃[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一中れ[illegible]やうの[illegible]
[illegible]

や　天川[illegible]

[illegible]

[illegible]

一[illegible]

ていや[illegible]

み　[illegible]

[illegible]

[illegible]

一[illegible]

[illegible]

[illegible]

秋月

但このみちのくにとゆかりをたくねてこゝろうてゆかりゆゑとなつかしきこゝろうてこゝろうてうたをすけのうたをしるしるべとしたかはきみをむしーしたちのうたをしるべとしたかはきみをしるべとしたかはきみをしるべとしたかはきみ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一初二三同じ　高代のうた面白く見えて　こゝみもの
きてこゝろ面白く見えのきこゝ同じ
一二四同じ　名ゝり川　春の日数あるべき　春
きりむしばまのたゝ　春のたゝ同じ
一五言第四又七言六七とも　高代のうたこゝみよ見
一毎句同　句ごとに　おなじ　れあるべし　見
一八病云
同心　乱思　猶鶯　清鳴　光猶　老桃　中絶
後梅　見
一同心　初つゝ　あるべし　あるべし
海ちゝ　ゆまそ　見さた　清よす

一みちは乃　乃　ゝ　なり
あさ　ゝ　ゝ　ゝ
一乱思八第一初乃第四共婚の一字
ちゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
こゝ　月　ゝ　ゝ
一猶鶯八初乃　共　ゝ　の
一字同ゝ
桜ち　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
一清鳴八三句共終の一字
ゝ　見　ゝ　ゝ

[illegible]

一[illegible]槽ハ[illegible]乃[illegible]
[illegible]
[illegible]

あるんと句絃面にて沢山なる面
ろしあるを代をとをあるへうしに又ひろあ
ひとりろかをとをあるへうしに
六ろ代ろて句絃面にて月の字を編すう
光をもとれとをゆうひろ和といろ面に
ろ代すう

さ月まり花ろちろ乳乃青絃ろけと

むろ代人の神の音そをる
ひ音を打打青の面とをひ音絃ろけと乳音
乃ろうあとあいろひ乃ろ絃とおれ乳ろゆ
さろくとあくろうとつ月の字絃の字の

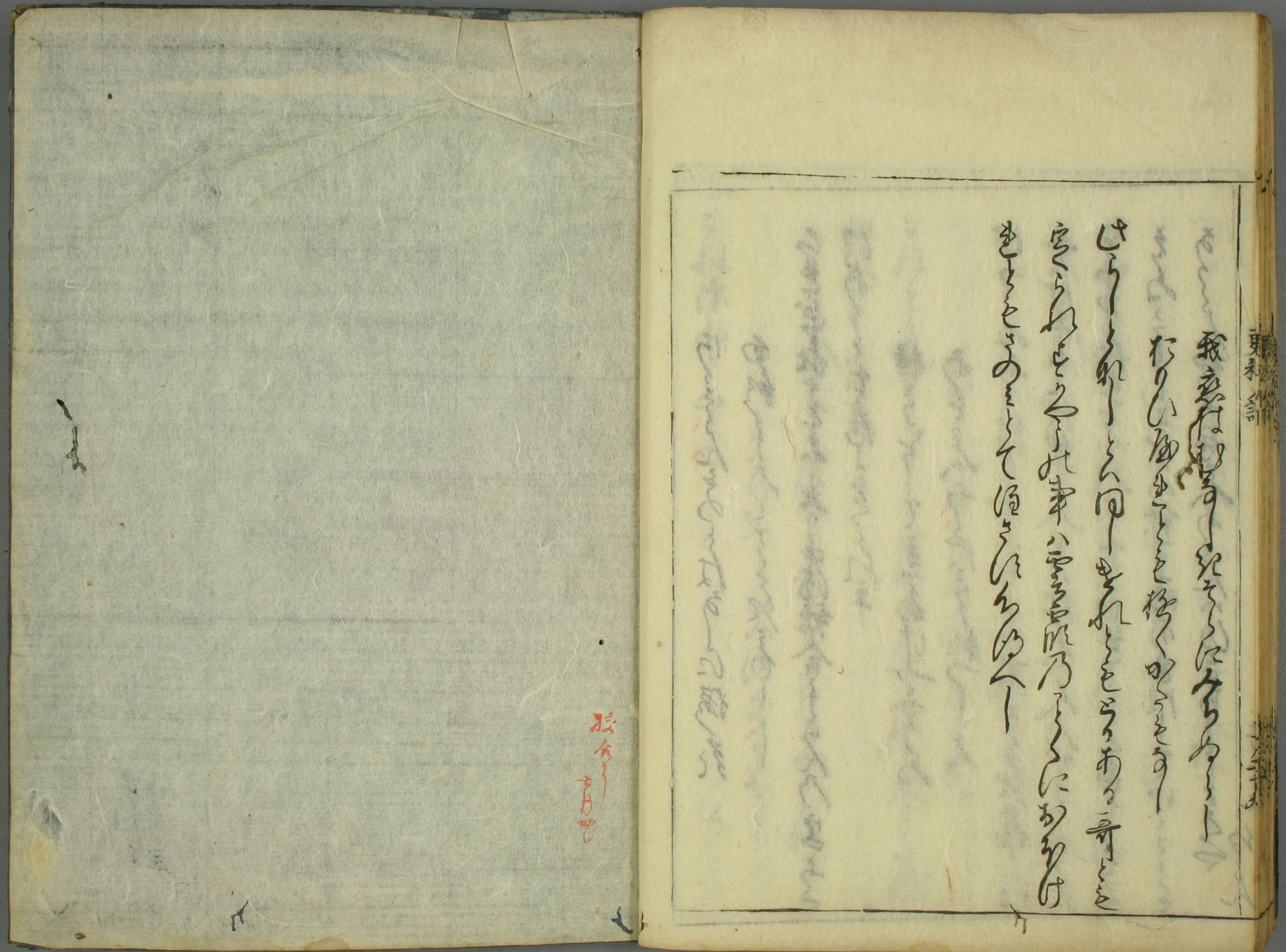
て編と天月の字をわろを句絃面にて絃をいろ
ろうさねよとひくとそころを月の字心別る
字を編をね徒奇

とろんをいひろろ月乃
あろあけ乃月絃まろあつる
長月を生乃月を絃をあろ月の面とを七月
八月乃月を生乃面さく眼あ代月し心あ
なり光神乃字代は不編し
一神よ初の面とてろむろうをとろ和とあ
とあ二ろよをとへわと又歌乃神の字或あり
云ろ紀年代神の句をねとを墨まり乳也

それをうかがひてゆかしくとゝめて面白き句案しえ
さんとこゝろをいたすこゝろ有ん人はそこ
ろをつくるこゝろ奇ハ初れ句ゝにたくを
わくをわくといふ面白
一あやかりもんとゝ上るもんとゝ上るもんとゝ
下るもんとゝとて姫つ事ありそまていあま
つゝやゝあいの飯名所くされあんの字ハ姫
ゝ見ゆの病さ法ハ人うゝえんとゝ
面白ゝ句ゝ病ゆゝ様もあるへゝ
ゝ歌を歌ゝ上ゝ歌のあるゝ
ゝ歌ゝあもゝ歌あるへゝ

一万葉ゝ所ゝ歌の意乃奇ゝ奇ハ
ゝ歌ゝ奇ゝ句ゝ
わゝゝ歌の病ゝ面白ゝ
にゝゝゝ
ゝ歌ゝ
面白ゝ
ゝ人ゝ
病ゝ
ゝ傳ゝ
ゝ同ゝ
ゝ病ゝ
ゝ人ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]